

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171700509		
法人名	社会福祉法人 恵和会		
事業所名	グループホーム花の木(第1ホーム)		
所在地	岐阜県恵那市大井町2709-72		
自己評価作成日	平成22年1月7日	評価結果市町村受理日	平成23年3月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2171700509&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成23年1月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

木造作りの平屋で自然豊かな静かな環境の中、地域との交流を持ちながら、皆で日向ぼっこをするように穏やかで安らぎのある生活を共に支えあい、個々を尊重し楽しく過ごせるように自立支援をしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者ごとの担当制をとっており、担当職員は一人ひとりの暮らし方や思いをよく把握し、きめこまかいケアを行っている。利用者には、居室やフロアの掃除など自分で出来ることはできるだけやってもらい、楽しく身体機能を引き出す支援を行っている。園芸課の高校生が毎年訪れたり、中学生の福祉体験も受け入れている。また、近隣の保育所からは運動会に招待され、自分の孫を応援するように毎年楽しみにしている。ホームで共に暮らせる期間には限りもあるが、母体法人の協力も得て全員での外出を実現させるなど、管理者以下職員は、利用者と寄り添って過ごす時間を大切に、穏かで安らぎのある生活を支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票(第1ホーム)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の基本理念を原点に地域密着型としての方針を基にホーム独自の理念を作り、目につく場所に掲げ話し合いの機会を作り、共有・意識づけに努め実践に繋げるようにしていますが不十分な面もあります。	地域とのつながりを大切に、利用者本位の暮らしを支える理念をつくり上げている。理念は、朝のミーティングや定例会議で話し合い、共有し、地域と関わりながら、その人らしい暮らしを続けられるように、日々努力を続けている。	全職員で、常に理念の原点に立ちもどり、具体的な理念の実践に向けた取り組みの継続に期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域社会との繋がりを常に意識し事業所から歩みよることに努め、挨拶や行事へのお誘いを行い、地域住民との交流に取り組んでいます。	自治会に加入はしていないが、保育所の運動会参加や祭りの子どもみこし・中学生の福祉体験・高校生の園芸ボランティアなど、様々な訪問や地域交流が行われており、利用者が地域の一員として自然に溶け込んで暮らしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員が関わり合う中で地域の方に訪問や行事参加をしてもらい交流の場を作り、生活状況を理解して頂けるように努めていますが、地域の高齢者の暮らしに反映させることまでは出来ていません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の開催で入居者の近況・事業所の取り組みを報告し、運営推進委員の方々から率直な意見を頂き、職員に伝達する中で地域との交流、サービスの向上に活かせる様に努めています。	2ヶ月に1回、自治会長・行政・地域包括支援センター・家族代表・民生委員の参加がある。近況や行事・活動報告に加え、出席者からインフルエンザについての質問や会議参加者の選定などについての意見も出され、サービスの向上に結び付けている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	会議、行事参加を通じて連絡・情報交換に努めるだけでなく、介護相談員さんの受け入れにより市町村との連携や電話・メールを密にして協力関係を築いていけるようにしています。	市から派遣される介護相談員が毎月を訪れ、利用者の相談に応じている。行政へは、介護保険の相談事を問い合わせたり、災害時の注意・情報提供などで協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者に対して緊急やむをえない場合にスタッフ間で話し合い家族に説明・同意を得ていますが、拘束しない援助に組みながら常に身体拘束をしない意識づけ取り組んでいます。玄関の施錠は夜間のみとしています。	職員全員で身体拘束についての研修を行い、拘束のないケアを目指している。精神の不安定による行動から、転倒や骨折等が予測される場合は、家族とよく話し合い、夜間や短時間のみに限定し、家族の同意書を取り、ベッド柵などを用いている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修・勉強会の参加に努め、虐待防止への意識をミーティングで徹底出来るようにしています。家族との関係を把握し職員間でコミュニケーションが取れる機会を作るように努めています。		

岐阜県 グループホーム花の木

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修・勉強会で学び、関係者との連携をとり入居者に活用するだけでなく家族にも制度について理解して頂く機会を検討していきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の説明・改定時の同意をもちろんのこと、入居後の様子・状態変化に応じて家族への連絡、確認に努め理解を得ています。面会時や行事を通じて安心感に繋げています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置、近況報告を通じて面会、行事の際に家族から意見・要望を聞けるようにしています。20年度よりサービス内容のアンケート調査を家族宛に実施、結果を運営推進会議・ミーティングで話しサービスに活かすようにしています。	利用者の家族には、来訪時だけでなく、法人全体から個別にアンケートをとり、意見や要望を聞いている。さらに、ホーム便りで、個々に気づきを報告し意見を聞くようにしている。意見等は、運営推進会議や職員会議で検討し、サービスの向上に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体ミーティングや日々の申し送り・記録に目を通し、意見・提案については詳しく把握できるように、スタッフ間のコミュニケーションに努め、応えていくようにしています。	管理者は、全体ミーティングや勤務時間帯の隙間を縫って、職員と話し合っている。人事異動の課題やケアの改善に対する意見や提案に加え、個人的悩みなども受け止め、職員会議で話し合い、業務の改善につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の姿勢や意欲を把握する様に努めコミュニケーションに心がけています。今年度、人事考課制度導入によりスタッフの努力・実績を理解し、更に職場環境や条件の整備に繋げていきます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修・勉強会の参加により実践に活かせる様な取り組み、資格取得への協力を配慮し質の向上に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流・勉強会、福祉機関からの案内を詳しく伝達し積極的に参加を勧め、再度、職員間での把握を行い、サービスの質を高めることに活かしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用初期においては特に、関わりを多く持ち個別ケア・傾聴に努め、本人の気持ちを把握するように心がけ家族への連絡を密にし信頼関係を築けるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居希望時より家族の思いを傾聴しサービスの内容・方向性を話し合い同意を頂き、信頼関係を築いていけるようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族に何が必要か把握に努め、担当の介護支援専門員とも連携を取り、法人内の専門職とも相談し初期段階での支援に活かしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共生の中で尊厳を持って関わり、お互いを支えあう中で生活歴・強みを把握し信頼関係に活かしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連携を密にし、家族関係に配慮し共に支えあっていくことで信頼関係を築けるように努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時の配慮や家族の協力を得ながら手紙・電話・訪問を通じ、馴染みの関係が継続できるように、本人の思いを尊重し、入居者の状態に合わせた個別の援助に努めています。	友人や隣人が気軽に遊びに来ることも多く、居室や応接室でゆっくり過ごしてもらえるように、場面づくりを支援している。馴染みの商店や喫茶店等へは、法人の車で出かけ、帰宅や墓参りは家族の協力を得ている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の状態の把握に努め、一緒に物を作ったり活動を行う中で、生活・日課において役割を持って頂くことでお互いの存在を認め合える様な支援に心がけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後、方向性に沿った相談や支援に努め、次の環境で変わらない生活が維持出来る様に情報提供にも心がけ本人、家族との関係を継続するようにしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の生活状況を把握し関わりを通じて思いを傾聴し家族とも連絡をとり、意志の尊重、自己決定に心がけています。	日常のゆったりした場面や、食事・入浴時などで会話しながらに思いや希望を把握している。個々の思いは、「ミーティング帳」に記録し、職員間で共有している。言葉で伝えることが苦手な利用者は、表情から汲み取り、寄り添うケアに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族との関係に考慮し情報を頂き、本人との会話・関わりを基に生活歴の把握に努め個々の理解を行っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り、ミーティング、個人の処遇記録を通じて一人ひとりの生活状況や状態把握に繋がっています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員により本人、家族の思いを尊重し、課題分析とモニタリングを行い、職員間で検討し介護計画の作成に繋がっています。サービス開始前、家族に参加を呼びかけて担当者会議を行っています。	サービス担当者会議で、課題分析とモニタリングを行い、家族も同席し、本人の思いや希望を介護計画に反映している。食事形態の変更や新たに福祉補助具を使う場合など、随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアに活かせるように生活状況や介護計画による援助結果を誰にでも理解できる様に記録し、ミーティング帳の活用も合わせて情報の共有に努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現状のニーズに対応するために法人内の事業所に相談し、助言・協力を得ながら柔軟な支援に繋がって居ます。		

岐阜県 グループホーム花の木

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の生活歴での地域資源を把握しボランティア・知人の繋がりによる力をかりて安楽な生活に繋げていけるように努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々の受診状況と家族の希望を優先し継続的な医療を受けて頂いています。家族にも現状の身体・精神面を理解して頂くためにも受診の協力・同行を依頼しています。	入居前からのかかりつけ医を継続している。定期受診は、家族の役割りとなっている。急変時、または必要時には、家族に連絡し、適切な医療を受けられるように、個々のかかりつけ医とは密に連携体制を取っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃より主治医との連携を密とし状態変化・異変の観察に努め、看護師に申し送り適切な対応に繋げています。月に2回、事業所内の看護師が訪問し指示・助言により対応に活かしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	受診時より本人の情報提供に努め主治医との関係作りに活かしています。入院の際、本人・家族の負担軽減に配慮し入院後は経過にそって病院側と連携を取っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所として重度化・終末期の方針・方向性を決め、家族には機会があるごとに説明し同意を得ています。明文化については検討中です。	入居の条件として、立ちあがれることや口から食べられることを挙げており、入居後でも、常時医療行為が必要になったら、他施設へ移ってもらうことを説明している。	重度化・終末期対応では、事業所で出来る限度を提示し、事前指定書等で明文化することを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルを見直し、実践の徹底と研修・勉強会に参加していますが、実践面では不十分な面があるので定期的な取り組みと知識づけを行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い、消防署の方の立会いを依頼し職員の対応が徹底出来るように努めています。災害時の必要物品の確認もしています。今後、地域の方にも協力して頂ける取り組みを計画していきます。	年に2回の訓練は、火災での避難の方法や消火器の使用法などを職員と利用者と一緒にやっている。夜間を想定した訓練では、ビデオを参考に防災意識を高めるなど、災害に備えた心構えを養っている。	あらゆる災害に備え、行政の定めた防災地図に基づく訓練や、職員の参集法・連絡法の訓練など、住民や運営推進会議などでも話し合い、近隣住民を含めた協力体制の構築に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を尊重し状態を把握した援助、関わりの中で言葉使いの徹底に努め、プライバシーの確保において常に確認し合うように努めています。	個々の生活歴や習慣を把握し、人格を尊重した対応をしている。居室への立ち入り時はノックにより配慮し、トイレ時の誘導法や名前の呼び方などは、利用者の個性を重んじ、誇りを損ねないように対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いや希望の傾聴に努め更に、表情・状態から思いを汲み取り、職員間での共有に努め支援に繋がっています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な日課は決めていますができる限り、一人ひとりのペースに合わせてながら希望・願いを取り入れた援助に繋がっています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容の活用・化粧・ネイルの実施や洋服の好みを聞き、その人らしさが身だしなみに繋がる様に支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好の聞き取り、リクエストメニューを行い、食への楽しみに繋げる様にしています。食事に関わる役割を持って頂き一緒に出来るようにしています。	利用者の好みや食べたい物を聞いて、献立を決め、食材を調達している。利用者の技量に合わせ、皮むきや盛り付け、配膳、食器拭きなどを手伝ってもらっている。職員も同じテーブルに付いて見守りながら、和やかな雰囲気の中で、一緒に食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	年に数回、カロリーメニューを実施し栄養面での知識の向上に努めています。個々の食事・水分量をチェック表にて確認し支援していますが、習慣に応じた支援の面では充分とはいえない。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの必要性を理解し毎食後、一人ひとりの口腔内の状態と個々の口腔ケアの状況に応じて支援しています。		

岐阜県 グループホーム花の木

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ誘導表、尿量、排便チェックから個々の排泄状況を把握し、トイレでの排泄、排泄動作の維持と不快感の軽減に努めています。	利用者の約半数が自力でトイレに行くことができ、入居時と変わらず維持できている。夜間も、排泄チェック表で本人のパターンを把握し、さりげなくトイレ誘導し、排泄能力を低下させないように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	家族から排便状況を確認し排便間隔をチェック表で確認し飲食物・運動・散歩等で自然排便に繋げています、経過をみて主治医に繋げています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	2ホームで入浴時間の時間帯を変えており、個々の希望、入浴状況に応じて入浴日や順番に配慮し心地良く入浴して頂けるように努めています。	入浴は週3回行い、ユニット別に日や時間を分けて行っている。毎日入浴したい人には、別のユニットで入浴をしてもらっている。また、足湯で温まったり、菖蒲湯やゆず湯で季節を味わっている。入浴を拒否する人はなく、入浴が楽しみの一つとなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活状況や心身の状態把握に努め環境においても配慮し、個々の生活リズムの中で安眠や休息が取れるようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の目的、用量、副作用を理解し誤薬防止への対応や服薬後の状況を把握し、医療職に申し送り、受診の際にも医師との連携を図っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴、残存機能を活かせる役割や楽しみを持ち、気分転換が出来る支援に努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別支援、外出において希望にそった支援が十分に出来ているとはいえないが、家族の協力、法人内の行事、地域のイベントへの参加を行い事業所として可能な支援を行う。	外出や行事は毎月のように行い、桜街道の花見や紅葉狩り・外食や喫茶などに出かけている。受診の際に個別の買い物に寄ったり、法人のバスを借りて全員で近くの名所へ出かけている。墓参りや実家の訪問は、家族の協力で行っている。	

岐阜県 グループホーム花の木

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の状況に応じて家族と話し、利用者による買い物時の使用を試みています。家族に預かり金の収支報告を行い管理をしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年、年賀状・暑中見舞いの作成を活動に取り入れています。希望に応じて電話使用や取次ぎを個別に支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地良く落ち着いた空間への配慮と季節感が感じられる物を取り入れ、作品・掲示物により安心感・馴染みが持てるように利用者と一緒に環境作りに努めています。	ホーム内には4つのトイレがあり、洗面所も3ヶ所設置され、利用者が口腔ケア用具を用いて、自力で口腔ケアができるような設計となっている。居室への廊下には手すりが設けられ、天然木のフロアは床暖房が付き、窓から見える眺めを楽しみ、利用者はのびのびゆったりと暮らしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや座椅子の配置を工夫し、和室の活用も考慮する中で個々の落ち着ける居場所作りに努めています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には和室と洋間があり、馴染みの家具を自由に持ち込んで頂き、面会時に家族に確認して頂きながら、居心地良く過ごして頂けるように配慮しています。	居室の入り口には、表札代わりの名札と色とりどりの暖簾がかけられ、それぞれの作品や手芸品が壁に貼られている。仏壇を持ち込んでいる人や、家族の写真や誕生日にホームからもらった写真・色紙なども飾られ、家具の配置や衣替え等は利用者が担当職員と一緒に、個性ある居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	木造作りで段差のないオープンフローで、個室の入り口に好みでのれん掛けさせて頂き、トイレ・洗面においては私物の物品を置きながら自立した生活に繋げています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171700509		
法人名	社会福祉法人 恵和会		
事業所名	グループホーム花の木(第2ホーム)		
所在地	岐阜県恵那市大井町2709-72		
自己評価作成日	平成22年1月7日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価票(第2ホーム)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の基本理念を原点に地域密着型としての方針を基にホーム独自の理念を作り、目につく場所に掲げ話し合いの機会を作り、共有・意識づけに努め実践に繋げるようにしていますが不十分な面もあります。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域社会との繋がりを常に意識し事業所から歩みよることに努め、挨拶や行事へのお誘いを行い、地域住民との交流に取り組んでいます。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員が関わり合う中で地域の方に訪問や行事参加をしてもらい交流の場を作り、生活状況を理解して頂けるように努めていますが、地域の高齢者の暮らしに反映させることまでは出来ていません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の開催で入居者の近況・事業所の取り組みを報告し、運営推進委員の方々から率直な意見を頂き、職員に伝達する中で地域との交流、サービスの向上に活かせる様に努めています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月に1度、介護相談員さんの訪問により行事、活動に参加して頂くことで、事業所の様子や入居者に対するサービスの状況を把握してもらい市町村との連携に繋がっています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者に対して緊急やむをえない場合にスタッフ間で話し合い家族に説明・同意を得ていますが、拘束しない援助に取り組みながら常に身体拘束をしない意識づけ取り組んでいます。玄関の施錠は夜間のみとしています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修・勉強会の参加に努め、虐待防止への意識をミーティングで徹底出来るようにしています。家族との関係を把握し職員間でコミュニケーションが取れる機会を作るように努めています。		

岐阜県 グループホーム花の木

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修・勉強会で学び、関係者と連携をとり入居者の現状を伝え、今後の援助に活かしていけるようにしています。家族にも制度について理解して頂く機会を検討していきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の説明・改定時の同意をもちろんのこと、入居後の様子・状態変化に応じて家族への連絡、確認に努め理解を得ています。面会時や行事を通じて安心感に繋げています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置、近況報告を通じて面会、行事の際に家族から意見・要望を聞けるようにしています。20年度よりサービス内容のアンケート調査を家族宛に実施、結果を運営推進会議・ミーティングで話しサービスに活かすようにしています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体ミーティングや日々の申し送り・記録に目を通し、意見・提案については詳しく把握できる様に、スタッフ間のコミュニケーションに努め、応えていくようにしています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度導入により、各ホームの主任がチームケアの中で職員一人ひとりの目標に向けた努力・実績を把握し考課に活かしていけるように努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修・勉強会の参加により実践に活かせる様な取り組み、資格取得への協力を配慮し質の向上に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流・勉強会、福祉機関からの案内を詳しく伝達し積極的に参加を勧め、再度、職員間での把握を行い、サービスの質を高めることに活かしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用初期においては特に、関わりを多く持ち個別ケア・傾聴に努め、本人の気持ちを把握するように心がけ家族への連絡を密にし信頼関係を築けるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居希望時より家族の思いを傾聴しサービスの内容・方向性を話し合い同意を頂き、信頼関係を築いていけるようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族に何が必要か把握に努め、担当の介護支援専門員とも連携を取り、法人内の専門職とも相談し初期段階での支援に活かしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共生の中で尊厳を持って関わり、お互いを支えあう中で生活歴・強みを把握し信頼関係に活かしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連携を密にし、家族関係に配慮し共に支えあっていくことで信頼関係を築けるように努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時の配慮や家族の協力を得ながら手紙・電話・訪問を通じ、馴染みの関係が継続できるように、本人の思いを尊重し、入居者の状態に合わせた個別の援助に努めています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の状態の把握に努め、一緒に物を作ったり活動を行う中で、生活・日課において役割を持って頂くことでお互いの存在を認め合える様な支援に心がけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後、方向性に沿った相談や支援に努め、次の環境で変わらない生活が維持出来る様に情報提供にも心がけ本人、家族との関係を継続するようにしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の生活状況を把握し関わりを通じて思いを傾聴し家族とも連絡をとり、意志の尊重、自己決定に心がけています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族との関係に考慮し情報を頂き、本人との会話・関わりを基に生活歴の把握に努め個々の理解を行っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り、ミーティング、個人の処遇記録を通じて一人ひとりの生活状況や状態把握に繋がっています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員により本人、家族の思いを尊重し、課題分析とモニタリングを行い、職員間で検討し介護計画の作成に繋がっています。サービス開始前、家族に参加を呼びかけて担当者会議を行っています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアに活かせるように生活状況や介護計画による援助結果を誰にでも理解できる様に記録し、ミーティング帳の活用も合わせて情報の共有に努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現状のニーズに対応するために法人内の事業所に相談し、助言・協力を得ながら柔軟な支援に繋がって居ます。		

岐阜県 グループホーム花の木

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の生活歴での地域資源を把握しボランティア・知人の繋がりによる力をかりて安楽な生活に繋げていけるように努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々の受診状況と家族の希望を優先し継続的な医療を受けて頂いています。家族にも現状の身体・精神面を理解して頂くためにも受診の協力・同行を依頼しています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃より主治医との連携を密とし状態変化・異変の観察に努め、看護師に申し送り適切な対応に繋げています。月に2回、事業所内の看護師が訪問し指示・助言により対応に活かしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	受診時より本人の情報提供に努め主治医との関係作りに活かしています。入院の際、本人・家族の負担軽減に配慮し入院後は経過にそって病院側と連携を取っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所として重度化・終末期の方針・方向性を決め、家族には機会があるごとに説明し同意を得ています。明文化については検討中です。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルを見直し、実践の徹底と研修・勉強会に参加していますが、実践面では不十分な面があるので定期的な取り組みと知識づけを行っていきます。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い、消防署の方の立会いを依頼し職員の対応が徹底出来るように努めています。災害時の必要物品の確認もしています。今後、地域の方にも協力して頂ける取り組みを計画していきます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を尊重し状態を把握した援助、関わりの中で言葉使いの徹底に努め、プライバシーの確保において常に確認し合うように努めています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いや希望の傾聴に努め更に、表情・状態から思いを汲み取り、職員間での共有に努め支援に繋がっています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な日課は決めていますができる限り、一人ひとりのペースに合わせながら希望・願いを取り入れた援助に繋がっています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容の活用・化粧・ネイルの実施や洋服の好みを聞き、その人らしさが身だしなみに繋がる様に支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好の聞き取り、リクエストメニューを行い、食への楽しみに繋げる様にしています。食事に関わる役割を持って頂き一緒に行えるようにしています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	年に数回、カロリーメニューを実施し栄養面での知識の向上に努めています。個々の食事・水分量をチェック表にて確認し支援していますが、習慣に応じた支援の面では充分とはいえない。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの必要性を理解し毎食後、一人ひとりの口腔内の状態と個々の口腔ケアの状況に応じて支援しています。		

岐阜県 グループホーム花の木

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ誘導表、尿量、排便チェックから個々の排泄状況を把握し、トイレでの排泄、排泄動作の維持と不快感の軽減に努めています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	家族から排便状況を確認し排便間隔をチェック表で確認し飲食物・運動・散歩等で自然排便に繋げています、経過をみて主治医に繋げています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	2ホームで入浴時間の時間帯を変えており、個々の希望、入浴状況に応じて入浴日や順番に配慮し心地良く入浴して頂けるように努めています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活状況や心身の状態把握に努め環境においても配慮し、個々の生活リズムの中で安眠や休息が取れるようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の目的、用量、副作用を理解し誤薬防止への対応や服薬後の状況を把握し、医療職に申し送り、受診の際にも医師との連携を図っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴、残存機能を活かせる役割や楽しみを持ち、気分転換が出来る支援に努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別支援、外出において希望にそった支援が十分に出来ているとはいえないが、家族の協力、法人内の行事、地域のイベントへの参加を行い事業所として可能な支援を行う。		

岐阜県 グループホーム花の木

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の状況に応じて家族と話し、利用者による買い物時の使用を試みています。家族に預かり金の収支報告を行い管理をしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年、年賀状・暑中見舞いの作成を活動に取り入れています。希望に応じて電話使用や取次ぎを個別に支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地良く落ち着いた空間への配慮と季節感が感じられる物を取り入れ、作品・掲示物により安心感・馴染みが持てるように利用者と一緒に環境作りに努めています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや座椅子の配置を工夫し、和室の活用も考慮する中で個々の落ち着ける居場所作りに努めています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には和室と洋間があり、馴染みの家具を自由に持ち込んで頂き、面会時に家族に確認して頂きながら、居心地良く過ごして頂けるように配慮しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	木造作りで段差のないオープンフローで、個室の入り口に好みでのれん掛けさせて頂き、トイレ・洗面においては私物の物品を置きながら自立した生活に繋げています。		